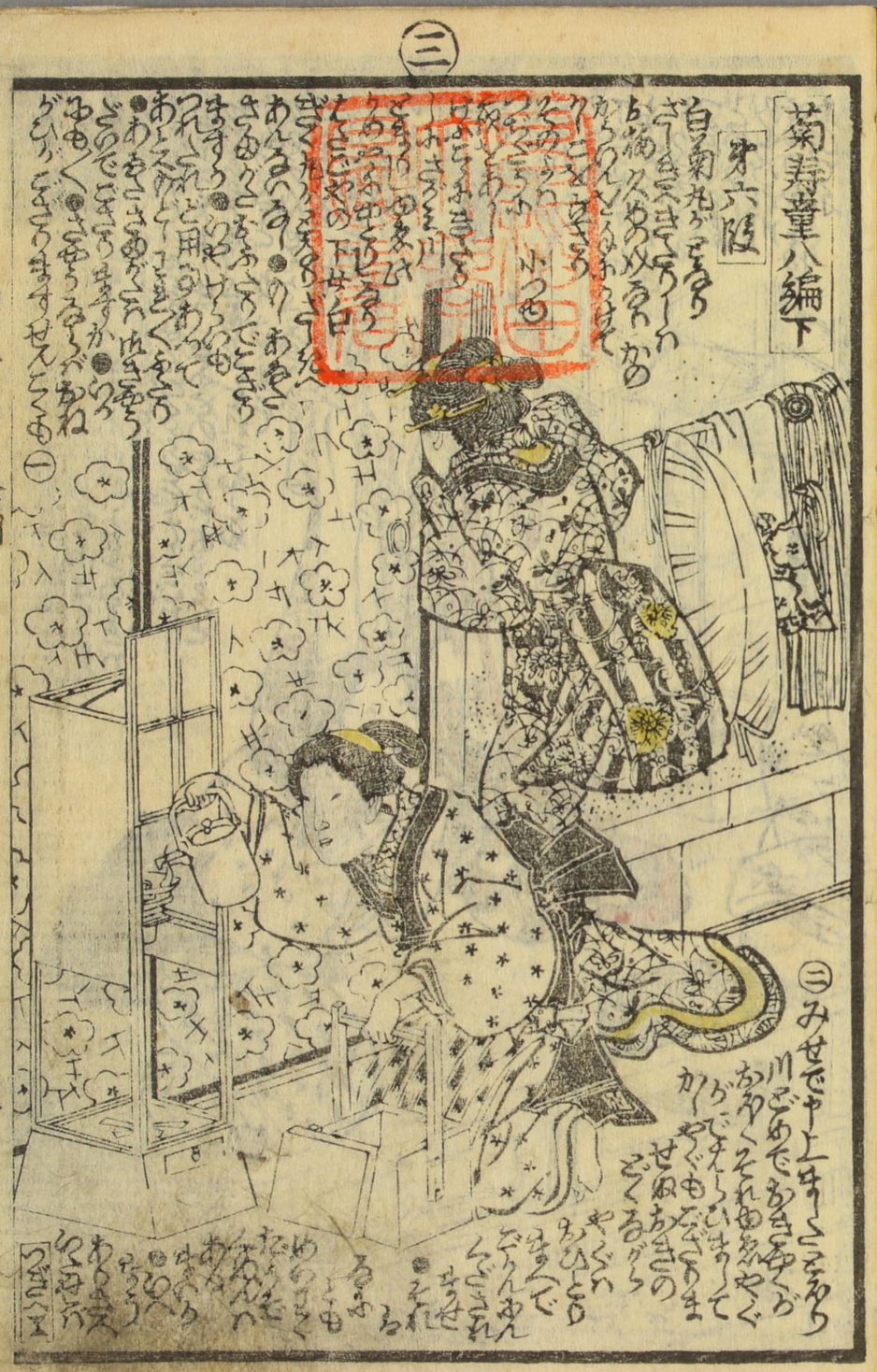
菊水の
下
へ13
3726
16

明へ13
號 3726
巻 16

京山作
國貞画

菊寿童八編下

栄久堂梓



これはりいやうせぬおとこるりのなふてうさまもはるばるうしやぐい一つで出をくあんるされまーこ●人いこもあれ川とあるまがりつまでとも有まあ面ぞまるりやぐ一つでられ●さてそれあるせんこくこせでたくこでいもとうちゃ出ーくふぐのやうでもよへとちつあるりまーこもあそれでかとめやまーこと一ケさてまこて久めの奴せんこくこるくこくまえるけり○小つぬいこめてのをさーのぞき●やし白ぎくさめこるりのきあくも丁ごりこーらふくりのやうるちりこりふつまもあいとのるりいもみちづれ川ぞめのやこるこあいてふ

●いろこめちーたびいつひこーろやまくるるかめのとめてちくきふるるゆもあいのぶまこ●まーあのお中さんごらんるこさんせうつあのーじゃごさんせあうとこのそのこあかりのぞろまれが●のくこあありやくまくこのふこぞくよーあるる人のおすめーじゃろ●あまえ人あきこふ入りまーこーとこーあそこまこくこ

小つや

京山著述近刻女粧考

金五巻

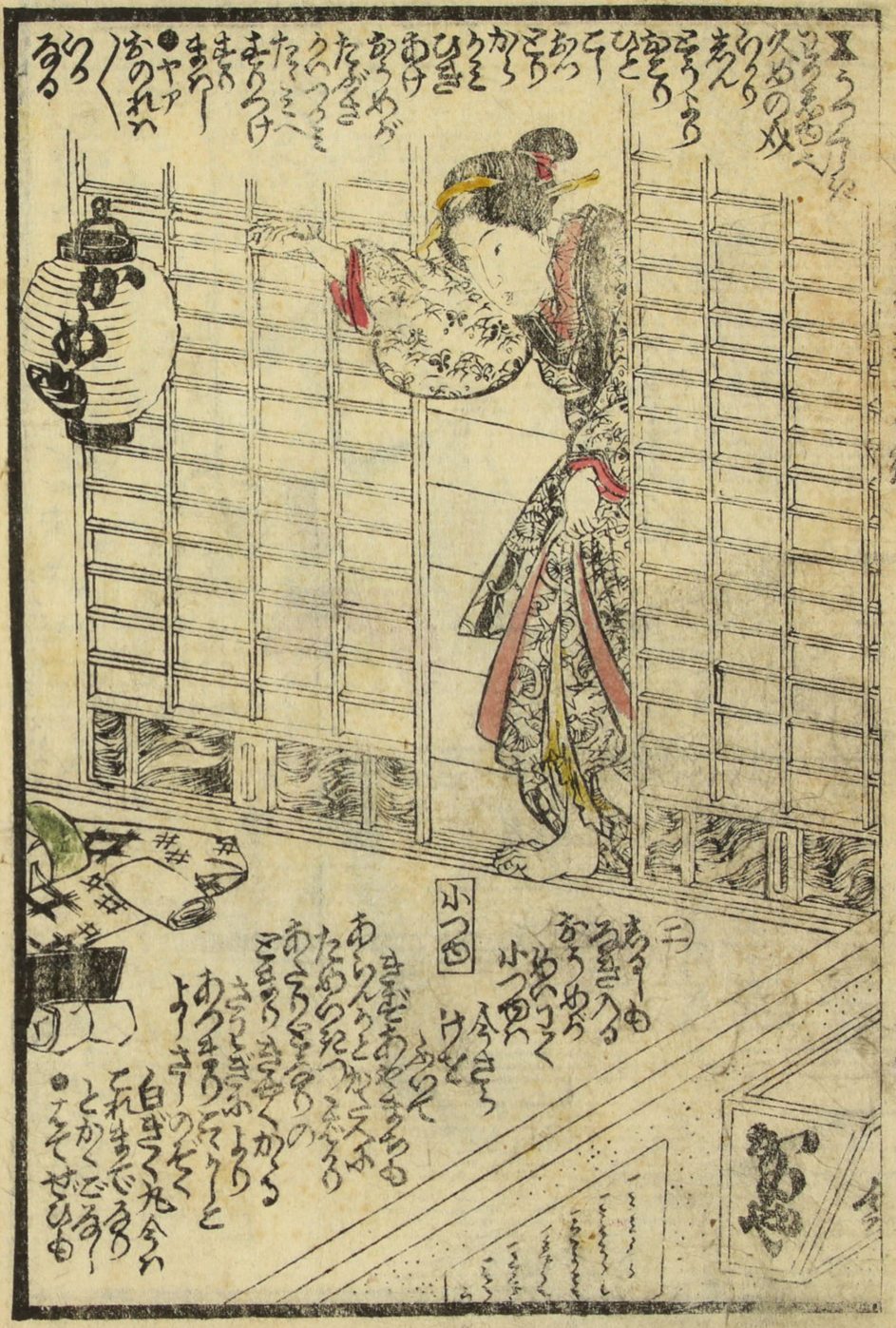
京伝遺稿

京山潤修序

董集三編

和漢印章考

京伝遺稿


小つぼ

白菊丸
宮梅

白菊丸
小西

久米の丸
あ稲

久米之丞

白菊丸

たびの用いぬすミをまず
せつやふあら
ずさてどくん
べんくさされ
よ。いゝきみ
ひとてありハ
あつくとも
ともヤス
べさざ仁奴
ダなそれん
のねらも
あまべ
身ども一人
のえらひ
みそあのがし
ありてがビ
ざんどの
あひざ
るへ
目と
うけ
あぐさ
めりの
めんばんやひきと
るみとまくもかくゆゆ
うまふらのけんめやと

○むすこの一平ありて ②

なりかれよ。いつまでも
とそ久めの奴
お鶴もおなじ
あくなひに
かゝりて
ひろき
めきけり

けよくも
まそふうち
ところどころ
さうさ
川原の
ろうの
あと
よりせ
身ふき
あきの
まる
すそりて
時
かれ
ともがも
つるぎを
ろべ
けり ①

ありつき
ところふ
たづねべき
あきれ
あれば
ろうち
らく
おぐく
べく
なる
かと
まさ
大と
せい
かや
を

さて
うけ
一平
久米の
奴 (次へ)

一平

冬来の女
あ福

お袖
久米之丞

由利の八郎

菊寿童八編
京山作
國貞画
古稿
久米の丈
坂本氏仙女
三丁目
○板元口上